

# 歯科疾患等の需要予測および患者等の需要に基づく適正な歯科医師数に関する研究

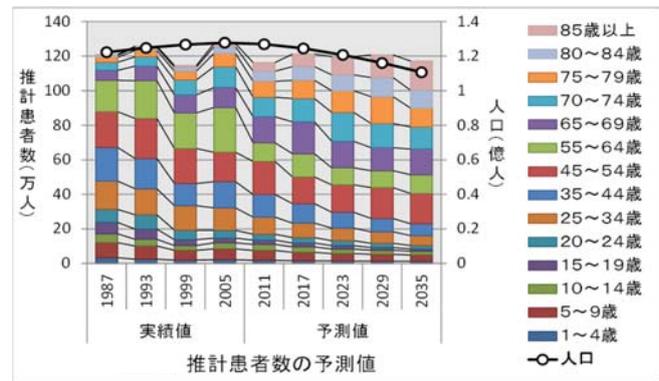
(研究代表者:安藤雄一)

## 研究目的

- 従来の歯科医療に関する需給分析は、供給面の検討が主で、需要面に関する検討が不十分であった。
- そこで本研究班では官庁統計、各種アンケートなどのデータを幅広く活用し、患者数と疾患量との関連分析を基にした患者数の将来予測、歯科疾患治療の充足状況、口腔状態・口腔保健行動と経済要因の関連、定期受診に関する住民意識などについて分析を行った。
- 加えて、供給面においても、近年の歯科開業の動向、歯科医院における就業状況、歯科衛生不足の実態等について調査・検討した。

## 研究成果（需要-1）

- 患者数は、う蝕減少と現在歯数増加の影響を強く受けていた。
- これを基に2035年の推計患者数の予測値を求めたところ、現状値より8%減で、高齢者層の割合が2倍近く増えると予測された。



## 研究成果（需要-2）

- 治療の充足状況
  - う蝕治療の充足度は比較的高かったが、要介護者の訪問診療の充足度は低かった。
- 経済要因との関連
  - 家計支出の低い層では口腔状態および口腔保健行動ともに好ましいものではない傾向があった。
- 歯科医院に定期受診する患者層の特性
  - 非定期に受診する患者層よりも、通院する歯科医院に対して良い印象を持っていた

## 研究成果（供給）

- 歯科医師について
  - 女性歯科医の離職ピークは30歳代で、近年高年齢化傾向を示す。
  - 歯科医師の年齢構成は全体的に高齢化し、若年層の減少傾向、女性比の上昇が顕著。
- 歯科衛生士について
  - 患者数や訪問診療の増加要因。
  - 求人している歯科医院数は1~1.3万と推計。
- 歯科医院における不就業時間
  - 7割の歯科医院において平均1時間程度の不就業時間を有していた。
- 近年の開業地
  - 都市部が多くなってきている傾向。

## 期待される成果、今後の展望、社会に与える影響等

- 科学的根拠に基づく歯科医療の需給問題に関する議論の展開
  - 従来型の歯科需要でなく新たな歯科需要に応じた歯科保健医療の供給体制の検討